

2011年度 研究開発戦略説明会 質疑応答メモ

日 時 : 2011年10月13日(木) 15:00~16:00
場 所 : 株式会社富士通研究所 岡田記念ホール
説明者 : 株式会社富士通研究所 代表取締役社長 富田 達夫

■質問者A

Q: 「ものづくりの現場が散在している」とのご説明がありましたが、それについてもう少し詳しく教えてください。

A: 富士通の場合、ものづくりに関係した半導体、部品、自動車関連など多くは子会社化しています。パソコンやサーバも含む製造工場に関しても、ほとんど子会社化しています。どちらも子会社化をすることによって、子会社の中で閉じたかたちで投資が行われるので、投資規模がこじんまりとしたり、あまり長期的な投資が出来なかったり、ものづくりに関する技術への投資が重複したりするケースが出てきます。研究所が核となり、富士通グループのもつ様々な技術を整理し、富士通本体のものづくりのチームと連携することで、グループ内の技術をうまく活用していきたいと考えています。富士通はサービスだけの会社ではなく、サービスともものづくりは富士通の両輪ですので、ものづくりについても強化していきたいと考えています。

■質問者B

Q: 海外の大学との連携についてご説明がありましたが、イスラエルの大学と具体的にどのようなことを研究する予定ですか？

A: (佐々木常務) 相手先との契約があるので詳細はお話できませんが、今後増え続ける様々な大量データを効率良く検索、分析するという分野に関するものです。

以上